



IBM Systems

**IBM Director z/VM センター
リリース情報**

バージョン 5.10 アップデート 3





IBM Systems

**IBM Director z/VM センター
リリース情報**

バージョン 5.10 アップデート 3

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM Systems
IBM Director z/VM Center
Release Notes
Version 5.10 Update 3

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.9

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2005, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

第 1 章 このリリースについて	1
このリリースの新機能	1
製品修正履歴	1
第 2 章 インストールおよびアップグレイ ドの情報.	3
インストール情報.	3
管理サーバー	5
管理コンソール	5
第 3 章 既知の制限、問題、および回避策	7
制限	7
問題	7
回避策	7
第 4 章 資料の更新	9
vmcp のサポート	9

「仮想サーバー配置」ウィンドウ内のディスク・サイ ズ標識	9
ディレクトリー・マネージャーの準備	10
z/VM システムの手動での追加	12
z/VM 仮想サーバーにネットワークが存在しない	13
インフォメーション・センターの資料の更新	14

付録 A. 関連情報	15
-----------------------------	-----------

付録 B. カスタマー・サポートへの連絡	19
サポートを依頼する前に	19
資料の使用	19
ソフトウェアのサービスとサポート	20

付録 C. 特記事項および商標	21
特記事項	21
商標	22

第 1 章 このリリースについて

本書には、IBM® Director バージョン 5.10 アップデート 3 とともに作動する z/VM® センター extension のリリース情報が記載されています。

z/VM センター extension は、IBM System z™ の実ハードウェアと z/VM ハイパーバイザーをベースとした仮想ハードウェア上で実行する Linux® システムを配置および構成するためのユーザー・インターフェースを提供します。詳しくは、IBM Systems Software Information Center 内の publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/vsd0_c_vsd_and_sc.html を参照してください。

これらのリリース情報に対する今後の更新、および他の資料については、IBM Director の Web サイト www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/ibm_director/resources/ を参照してください。

このリリースの新機能

IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 用 z/VM センター extension には以下の改善事項が含まれています。

vmcp のサポート

IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 用 z/VM センター extension では、従来サポートされていた cpint の他に vmcp のサポートが追加され、z/VM ゲスト仮想マシンで実行される Linux インスタンスが z/VM 制御プログラム (CP) コマンドを発行できるようになります。

「仮想サーバー配置」ウィンドウ内のディスク・サイズ標識

ディスク情報を表示する「仮想サーバー配置」ペインに、ディスク・サイズを MB 単位で表示する「サイズ (バイト) (Size in Bytes)」フィールドが新たに追加されています。

製品修正履歴

IBM Director 用 z/VM センター extension では、IBM Director バージョン 5.10 アップデート 1 用 z/VM センターでの以下の問題点が修正されています。

z/VM センターのサーバー extension を Windows® にインストールすると、完了メッセージが出されるが、extension は使用可能でない。

Windows をリブートして、インストールを完了させてください。

Windows で、z/VM センターのサーバー extension をバージョン 5.10 からバージョン 5.10 アップデート 1 にアップグレードすると、Windows のプログラムの追加と削除ユーティリティに 2 つの項目ができる。

extension を削除する場合は、どちらの項目も使用できます。削除処理によって、Windows がリブートされ、extension の全コンポーネントがアンイン

ストールされますが、追加と削除ユーティリティーは依然として 1 つの項目を表示しています。残っている項目を削除するには、この項目に対して削除処理を実行します。

新しいドメイン・ネームを指定すると、個人情報設定中に、`/etc/hosts` 内のグローバル・ドメインが変わる。

オペレーティング・システム・テンプレートが配置された後で個人情報設定が実行されると、`/etc/hosts` ファイル内の全項目が変更される場合があります。

これが起きるのは、オペレーター端末タスク (OST) ウィザードの実行中に、完全に修飾されたドメイン・ネームが与えられ、その新ドメイン・ネームが前のドメイン・ネームと同じでない場合です。

レベル 1 システムに複数のネットワーク・インターフェースがある場合は、レベル 1 のディスカバリーが実行しない場合がある。

IBM Director サーバー がプライマリー・ネットワーク・インターフェース上のシステムと通信できないときは、レベル 1 ディスカバリーで、複数のネットワーク・インターフェースを持つシステムを検出できない場合があります。代表的なプライマリー・ネットワーク・インターフェースは、デフォルトの経路が設定されているものです。

始めに、レベル 1 システムがレベル 0 システムとして検出された場合には、この問題は起きません。これらのレベル 0 システムは後でレベル 1 にプロモートされます。

オペレーティング・システム・テンプレートの削除によって、エラー・メッセージが出される場合がある。

オペレーティング・システムを削除すると、以下のメッセージが表示される場合があります。

```
DNZZSM365E: The method DeleteInstallImage was called on 'root/cimv2:IBM_ZvmCbcProvisioningService.CreationClassName="IBM_ZvmCbcProvisioningService",Name="EPP4Z", SystemCreationClassName="IBM_ZvmComputerSystem",SystemName="000000000009980402.VMID2"' and returned with error.
```

このメッセージは無視してかまいません。アクションは正常に完了していません。

IBM 3390 直接アクセス・ストレージ・デバイス (DASD) 9 型の容量が正しく表示されない。

DASD 3390-9 がファイル・プール内で定義されている場合、ファイル・プール内の DASD 容量の表示は、約 8 GB ではなく 4020 MB の単位で示されます。

第 2 章 インストールおよびアップグレードの情報

ここでは、IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 用 z/VM センター extension のインストールについて説明します。z/VM センター extension のアップグレードはインストールと同じ手順で行います。

IBM Systems Software Information Center 内の以下のトピックも参照してください。

- z/VM Manageability Access Point も含む z/VM センター用 z/VM 環境の準備については、
publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/vsd0_t_prepare.html を参照してください。追加情報については、IBM Director Web サイト (www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/ibm_director/resources/) の *IBM Director* バージョン 5.10 アップデート 3 リリース情報 を参照してください。
- z/VM センター サーバー extension とコンソール extension については、
publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/vsd0_t_installing_zvmctr.html を参照してください。
- 必要なライセンス・キーのインストールについては、
publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/vsd0_t_install_key.html を参照してください。
- z/VM Manageability Access Point での z/VM CIM インストールメンテーションのインストールについては、
publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/vsd0_t_install_map_rpm.html を参照してください。

z/VM CIM インストールメンテーションをインストールまたはアップグレードするための RPM を入手するには、以下の手順に従ってください。

1. IBM Director ダウンロード Web サイトの
www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/xseries_sm/dwnl.html にナビゲートします。
2. リストから **System x™** および **BladeCenter®** 用の **IBM Director 5.10** を選択し、要求情報を入力して、**Submit** をクリックします。
3. 「現行バージョン」の見出しの下の **IBM Director 5.10 Update 3** をクリックします。ダウンロード・パッケージの名前は `dir5.10.3_zvmmap-agent-linux-s390.tar` です。

インストール情報

ここでは、管理サーバーおよび管理コンソールで IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 の z/VM センター extension コンポーネントをインストールする場合の追加情報が記載されています。

z/VM センター extension のコンポーネントは、Linux、AIX®、Windows、および i5/OS® で実行できます。

注:

1. i5/OS では、z/VM センター extension のコンポーネントは、IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 と一緒に自動的にインストールされます。z/VM センター extension のコンポーネントを別途インストールする必要はありません。
2. バージョン 5.10 アップデート 3 では、AIX 用 z/VM センター extension は更新されません。

注:

Linux および Windows 用 z/VM センター extension のコンポーネントを入手するには、以下の手順に従ってください。

Linux 用 z/VM センター extension コンポーネントは、Linux on System z、Linux on System p™、または Linux on System x™ にインストールできます。

オペレーティング・システムごとに別個にパッケージがあります。各パッケージには、そのオペレーティング・システム用のサーバー extension とコンソール extension 両方のインストール・ファイルが含まれています。使用可能なダウンロード・パッケージの概説については、表 1 を参照してください。

1. IBM Director ダウンロード Web サイトの www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/xseries_sm/dwnl.html にナビゲートします。
2. リストから **System x** および **BladeCenter** 用の **IBM Director 5.10** を選択し、要求情報を入力して、**Submit** をクリックします。
3. 現行バージョンの見出しの下の **IBM Director 5.10 Update 3** をクリックします。
4. ダウンロードするパッケージのリンクをクリックします。

表 1. パッケージと内容のダウンロード

コンポーネント	パッケージ・ファイル名
Linux 用 IBM Director 5.10 アップデート 3 z/VM センター extension IBM Director サーバーおよび IBM Director コンソールのためのフルインストール・パッケージを含んでいます。 <ul style="list-style-type: none">• zVMCenterServerExt-5.10.3.noarch.rpm• zVMCenterConsoleExt-5.10.3.noarch.rpm	dir5.10.3_zvmcenterext-linux.tar
Windows 用 IBM Director 5.10 アップデート 3 z/VM センター extension IBM Director サーバーおよび IBM Director コンソールのためのフルインストール・パッケージを含んでいます。 <ul style="list-style-type: none">• zVMCenterServerExt_5.10.3_windows.exe• zVMCenterConsoleExt_5.10.3_windows.exe	dir5.10.3_zvmcenterext-windows.zip

z/VM センター extension のコードは無料でダウンロードできます。ただし、z/VM センターを使用するためには、IBM Virtualization Engine™ の IBM Director Extensions V5.10 フィーチャーと Linux on System z V2.1 Infrastructure Services を購入し、ライセンス・キーをインストールする必要があります。詳しくは、IBM Systems Software Information Center 内の publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/vsd0_t_install_key.html を参照してください。

以下のセクションでは、z/VM センターのサーバー extension とコンソール extension のそれぞれのインストール情報を提供します。サーバーおよびコンソール extension を同一システムにインストールすることができますが、必須ではありません。

管理サーバー

管理サーバーに IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 の z/VM センター extension コンポーネントをインストールする場合は、以下の事項を考慮してください。

IBM Director サーバーは、z/VM センターのサーバー extension のインストールを開始する前に、をインストールしておく必要があります。以下の手順に従ってください。

1. インストール・パッケージを、extension をインストールするシステムの一時ディレクトリにダウンロードします。ご使用のオペレーティング・システム用の正しいパッケージを識別するには、4 ページの表 1 を参照してください。
2. 表 2 に記載のいずれかのコマンドを使用して、インストール・パッケージからインストール・ファイルを解凍します。

表 2. インストール・ファイルをインストール・パッケージから解凍するコマンド

対象	次のコマンドを入力して Enter を押してください。
Linux	<code>tar -xf dir5.10.3_zvmcenterext-linux.tar</code>
Windows	<code>unzip dir5.10.3_zvmcenterext-windows.zip</code>

3. IBM Systems Software Information Center 内の publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/vsd0_t_installing_zvmctr.html に記載の手順に従ってインストールを進めます。

Windows のみ:

- z/VM センターのインストールまたはアンインストールの後で、Windows をリブートします。
- z/VM センターは、IBM Director サーバーをアンインストールする前にアンインストールします。

管理コンソール

管理コンソールに IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 z/VM センターのコンポーネントをインストールする場合は、以下の事項を考慮してください。

z/VM センターのコンソール extension のインストールを開始する前に、IBM Director コンソールをインストールしておく必要があります。以下の手順に従ってください。

1. インストール・パッケージを、extension をインストールするシステムの一時ディレクトリーにダウンロードします。ご使用のオペレーティング・システム用の正しいパッケージを識別するには、4 ページの表 1 を参照してください。
2. 表 3 に記載のいずれかのコマンドを使用して、インストール・パッケージからインストール・ファイルを解凍します。

表 3. インストール・ファイルをインストール・パッケージから解凍するコマンド

対象	次のコマンドを入力して Enter を押してください。
Linux	<code>tar -xf dir5.10.3_zvmcenterext-linux.tar</code>
Windows	<code>unzip dir5.10.3_zvmcenterext-windows.zip</code>

3. IBM Systems Software Information Center 内の publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/vsd0_t_installing_zvmctr.html に記載の手順に従ってインストールを進めます。

第 3 章 既知の制限、問題、および回避策

ここでは、既知の制限、問題、および回避策について説明します。

制限

IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 用 z/VM センターの extension には以下の改善事項が含まれています。

SUSE Linux Enterprise Server 9 の新しいデフォルト・ポート

SUSE Linux Enterprise Server 9 のデフォルト・ポートが 5989 から 15989 に変更されました。詳しくは、9 ページの『第 4 章 資料の更新』を参照してください。

問題

IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 用 z/VM センターの extension には次のような既知の問題があります。

ユーザー・ディレクトリーの変更が示されない。

仮想サーバーのような z/VM ユーザー ID のディレクトリー項目の変更は、DirMaint™ 内の該当するインターフェースが実行されていない場合は、IBM Director 内に示されません。詳しくは、9 ページの『第 4 章 資料の更新』を参照してください。

IBM Director コンソールの実行中に、Windows から z/VM センターのコンソール extension をアンインストールすると、Windows がリポートされます。

extension をアンインストールする前に、すべての IBM Director コンソールインスタンスを停止させると、リポートは起きません。

EXTENT CONTROL ファイル内の z/VM DIRMAINT diskpool 指定に無効なボリューム ID が含まれていると、ディスク・プールの照会がエラーになる場合がある。DirMaint ファシリティーの EXTENT CONTROL ファイルの diskpool セクションに指定した複数のボリューム ID が正しくないと、エラーが起きたり、CIM サーバーが停止することさえあります。これを防止するには、z/VM 管理者に、ディスク・プール指定に正しくないボリューム ID を含めないよう依頼します。

回避策

ここでは、IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 用の z/VM センター extension を使用しているときに起きる可能性がある問題の解決策について説明します。

ご使用のシステムの負荷が非常に高い場合、タイムアウト問題が発生することがあります。

次のファイルのほとんどすべての仮想共用ディスク(VSD) 操作のタイムアウト値を希望通りに変更できます。

/opt/ibm/director/data/ZvmCenterVSDConfig.properties

第 4 章 資料の更新

ここでは、IBM Director 5.10 オンライン・ヘルプ、あるいは入手またはアクセスが可能なオンラインまたは印刷版の IBM Director 5.10 資料に記載されていない可能性がある資料の更新について説明します。

vmcp のサポート

IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 用 z/VM センター extension では、従来サポートされていた cpint の他に vmcp のサポートが追加され、z/VM ゲスト仮想マシンで実行される Linux インスタンスが z/VM 制御プログラム (CP) コマンドを発行できるようにします。以下の Linux インスタンスから CP コマンドを発行できるようにする必要があります。

- z/VM Manageability Access Point
- Linux 主システム
- z/VM センターで複製または管理される Linux インスタンス

次の Linux ディストリビューションには、cpint または vmcp (あるいは両方) が含まれ、z/VM センターは、ユーザーに必要な CP コマンド・サポートをインストールし、使用できるようにします。

- SUSE Linux Enterprise Server 9 (IBM System z™ 用) (任意の Service Pack レベル)
- Red Hat Enterprise Linux AS バージョン 4 (IBM System z アップデート 3 以降用)

Linux ディストリビューションが Red Hat Enterprise Linux AS バージョン 4 (IBM System z アップデート 2 以降用)である場合は、ご使用のディストリビューションを Red Hat Enterprise Linux AS バージョン 4 (IBM System z アップデート 3 以降用) にアップグレードすることを検討してください。アップグレードができない場合は、linuxvm.org/Patches/ から cpint tar ファイルをダウンロードできます。バージョン 2.5.3 以降が必要です。この tar file には、cpint をコンパイルおよびインストールする方法の手順を示す README ファイルが含まれています。

注: Web からダウンロードしたカーネル・モジュールのインストールは、ご使用のディストリビューションのサポート契約に影響を及ぼす場合があります。

「仮想サーバー配置」ウィンドウ内のディスク・サイズ標識

ディスク情報を表示する「仮想サーバー配置」ウィンドウに、MB 単位でディスク・サイズを表示する「サイズ (バイト) (Size in Bytes)」フィールドが新たに追加されています。以下のウィンドウがこの影響を受けます。

- 「オペレーティング・システム・テンプレート」ペイン: 「専用ディスク」ページ
- 「オペレーティング・システム・テンプレート」ペイン: 「共用ディスク」ページ

- 「z/VM 仮想サーバー」 ペイン: 「ディスク」 ページ
- 「オペレーティング・システム」 ペイン: 「ディスク」 ページ

ディスクが物理ディスクの一部ではなく、物理ディスク全体である場合、これらのウィンドウの以下のフィールドはすべてゼロの値を表示します。

- サイズ (バイト)
- 開始
- 範囲
- 単位
- ブロック
- サイズ

物理ディスクのタイプは「タイプ」フィールドに示されます。

ディレクトリー・マネージャーの準備

z/VM センターには、z/VM ゲスト仮想マシンを管理するディレクトリー・マネージャーが必要です。

始める前に:

- DirMaint をディレクトリー・マネージャーとして使用する場合は、APAR VM63700、VM63733、および VM63639 用の PTF が適用された DirMaint FL510 が必要です。
- このタスクを実行するには、z/VM MAINT ユーザー ID、またはディレクトリー・マネージャーのコマンドを発行する許可を持つ代替のユーザー ID へのアクセスが必要です。

z/VM は、そのゲスト仮想マシンに関する情報を z/VM ディレクトリーに保守します。z/VM ディレクトリーには、それぞれのゲスト仮想マシンの項目が含まれています。各項目は、割り当てられているリソースおよび属性において、ゲスト仮想マシンを定義するディレクトリー・ステートメントのセットで構成されます。

ディレクトリー・マネージャーのインストールおよびカスタマイズは、製品に依存します。図示するために、このトピックでは、z/VM センターのために IBM z/VM ディレクトリー保守機能 (DirMaint) をセットアップする方法について説明します。DirMaint は、z/VM に同梱されていますが、それを使用するためのライセンスを取得する必要があります。

ディレクトリー・マネージャーとして DirMaint を使用している場合は、以下の手順に従ってください。別のディレクトリー・マネージャーを使用している場合は、ご使用のディレクトリー・マネージャーの製品資料を参照して、相当するステップを実行してください。

1. タグ付きコメントを定義します。z/VM センターは、オペレーティング・システム情報を z/VM ディレクトリー・レコードに保管するためにタグ付きコメントを必要とします。
 - a. ご使用の z/VM で、MAINT ユーザー ID または代替のユーザー ID との CMS セッションを確立します。

- b. z/VM のために既に定義されているタグ付きコメントを照会します。次のように発行します。

```
DIRM DEFINESTAG ? ALL
```

z/VM は多数の DVHDST3404I メッセージを発行します。既存のタグ付きコメントを通知するメッセージの形式は、*tagname nnn* です。ここで、*tagname* は、アスタリスク (*) で始まりコロン (:) で終わる固有のコメント名で、*nnn* は、そのコメントの固有の番号です。

例: 次の出力例では、既存のタグ付きコメントの名前は *STAGVAR1: および *STAGVAR2: で、番号 000 および 001 を使用します。

```
DVHREQ2288I Your DEFINESTAG request ...
DVHDST3404I The current ...
DVHDST3404I tagname sortorder.
DVHDST3404I *STAGVAR1: 000
DVHDST3404I *STAGVAR2: 001
DVHREQ2289I Your DEFINESTAG request ...
```

- c. 既存のタグ付きコメントに次のものが含まれているかどうかを調べます。

- *CIMGOS01:
- *CIMIMG:

- d. 形式 *CIMNIC*mm*: のタグ付きコメントがあることを確認します。ここで、*mm* は、01 から 99 までの 2 桁の 10 進数です。

これらタグ付きコメント変数の番号は、z/VM 仮想サーバーのために複製できるネットワーク・インターフェースの数を制限します。ご使用の z/VM 仮想サーバーのいずれかで使用することを計画しているインターフェースの数と同数のタグ付きコメントをこの形式で定義します。必要になったら、より多くのタグ付きコメントを定義できます。

- e. ステップ 1c のタグ付きコメントのいずれかがまだ存在していないか、形式 *CIMNIC*mm*: のタグ付きコメントが十分でない場合は、タグ付きコメントを定義します。欠落しているコメントごとに、次の形式のコマンドを発行します。

```
DIRM DEFINESTAG CREATE tagname nnn
```

ここで、*tagname* は欠落しているコメントの名前で、*nnn* はタグ付きコメントについて固有の 3 桁の 10 進数です。

例:

```
DIRM DEFINESTAG CREATE *CIMGOS01: 100
DIRM DEFINESTAG CREATE *CIMIMG: 101
DIRM DEFINESTAG CREATE *CIMNIC01: 102
DIRM DEFINESTAG CREATE *CIMNIC02: 103
DIRM DEFINESTAG CREATE *CIMNIC03: 104
```

この例では、形式 *CIMNIC*mm*: の 3 つのタグ付きコメントが定義されました。このセットアップでは、z/VM センターによって作成されるすべての z/VM 仮想サーバーは、3 つのネットワーク・インターフェースに制限されています。

2. DirMaint のローカル CONFIGxx DATADVH メンバーで次の設定が行われていることを確認してください。

```
ALLOW_ASUSER_NOPASS_FROM= VSMSERVE *
```

5.10 アップデート 3 以降: IBM Director バージョン 5.10.3 以降では、DirMaint のローカル CONFIGxx DATADVH メンバー内で、次の設定も行う必要があります。

```
ASYNCHRONOUS_UPDATE_NOTIFICATION_EXIT.UDP= DVHXNE EXEC
```

3. **オプション:** 経験のある z/VM システム・プログラマーの方は、1 つ以上の z/VM 仮想サーバー・プロトタイプを定義することもできます。

プロトタイプでは、z/VM センターで z/VM 仮想サーバーを作成するときを使用できるデフォルトを指定します。

詳しくは、z/VM ディレクトリー保守機能 コマンド・リファレンス (SD88-6458) で DIRM ADD コマンドの説明を参照してください。

4. **オプション:** ディスクをコピーするための追加の z/VM DATAMOVE サービス・マシンを定義します。

DATAMOVE サーバーは、ディスクのコピー操作を実行する特権を持つ z/VM サービス・マシンです。ディスクのコピー操作では、z/VM センターでは少なくとも 1 つの DATAMOVE サーバーが必要です。

複数の DATAMOVE サーバーを使用すると、複数のシステムを同時に複製できる場合があります。詳しくは、「z/VM Directory Maintenance Facility Tailoring and Administration Guide」(SC24-6024) を参照してください。

z/VM システムの手動での追加

IBM Director で管理する新しい z/VM システムを手動で追加できます。

新しい z/VM システムを IBM Director コンソールに追加するには、以下の手順に従ってください。

1. IBM Director コンソールで、「コンソール」 → 「新規」 → 「管理対象オブジェクト」 → 「z/VM システム」をクリックします。
2. 「z/VM システムの追加」ウィンドウで、新しいシステムに関する以下の情報を入力します。
 - a. 「IP アドレス」フィールドに、z/VM 管理容易アクセス・ポイント (MAP) で実行している z/VM 管理エージェントの IP アドレスを入力します。
 - b. 「ポート番号」フィールドに、z/VM 管理エージェントのポートを入力します。デフォルト値は 5989 です。

5.10 アップデート 3 以降: SUSE Linux Enterprise Server 9 のポートを 15989 に変更します。

- c. 「システム名」フィールドに、追加している z/VM システムの名前を入力します。
- d. 「コンピューター・システム名」フィールドに、z/VM システムを実行しているハードウェアの指定を *csname.LPAR_name* の形式で入力します。

csname zSeries ハードウェア。

LPAR_name

z/VM システムが実行している論理パーティション。

「コンピューター・システム名」が不明な場合は、デフォルト値を使用できません。デフォルト値は、管理対象オブジェクトがアンロックされた後に、存在検査によって置き換えられます。

- e. 「バージョン」フィールドに、z/VM システムが実行中の IBM Director のバージョンを入力します。バージョンが不明な場合は、デフォルト値を使用します。デフォルト値は、管理対象オブジェクトがアンロックされた後に、存在検査期間 (分) によって置き換えられます。
 - f. 「z/VM 管理プロファイル・バージョン」フィールドに、z/VM 管理プロファイルのバージョンを入力します。デフォルト値である **1.1.0** を受け入れることができます。
3. 「OK」をクリックします。

z/VM 仮想サーバーにネットワークが存在しない

この問題は、「仮想サーバー配置」タスクと「サーバー複合システム」タスクの両方に影響します。

問題

新規に作成した z/VM 仮想サーバー上の Linux インスタンスが予期されるネットワーク内にアクセスできないか、あるいは ping が作動しません。

調査

ご使用のネットワーク仕様で、新規の Linux インスタンスを調べてください。「仮想サーバー配置」タスクで作成された Linux インスタンスは、その新規 Linux インスタンスがベースとするマスター Linux システムと同じサブネット内になければなりません。

マスター Linux システムを確認してください。マスター・システムのディレクトリー項目に、正しいネットワーク仕様が含まれている必要があります。以下の点を確認してください。

- OSA デバイスのデバイス番号が含まれている。
- NICDEF 定義が含まれている (該当する場合)。
- 接続が VSWITCH を使用している場合、そのスイッチへのアクセスが新規ユーザーに認可されている。

マスター Linux でのゲスト LAN 定義により、新規 Linux インスタンスの VSWITCH が定義される結果になった場合は、そのゲスト LAN が制限付きであったか、新規 Linux インスタンスが作成されたときに、ゲスト LAN がありませんでした。必ずゲスト LAN が存在し、z/VM Manageability Access Point によってアクセス可能になるようにしてください。

z/VM に関するスキルがある場合は、ディレクトリー・マネージャーを使用して、誤りのあるネットワーク定義を訂正することができます。あるいは、新しい Linux インスタンスを持つ z/VM 仮想サーバーを削除し、ゲスト LAN が存在し、z/VM Manageability Access Point によってアクセス可能であることを確認してから、新しい z/VM 仮想サーバーを作成することができます。

インフォメーション・センターの資料の更新

IBM Systems Software Information Center 内で、以下の更新されたトピックを参照したい場合があります。

- System z サーバーでの IBM Director インストールの準備
- マスター Linux システムの準備
- Linux ゲスト・オペレーティング・システムが z/VM に関連付けられていない

付録 A. 関連情報

本書以外から IBM Director に関する追加情報を入手することもできます。

WWW 上の IBM Director のリソース

以下の Web ページでは、IBM Director およびその他のシステム管理ツールを理解、使用、およびトラブルシューティングするために役立つリソースが提供されています。

IBM Director インフォメーション・センター

publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_main.html

IBM Director インフォメーション・センターは定期的に更新され、広範囲なトピックにわたる最新の資料を参照できます。

IBM Director Web サイト (ibm.com®)

www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/ibm_director/

IBM Director Web サイト (ibm.com)には、現在サポートされているすべてのバージョンの IBM Director に関するダウンロードおよび文書へのリンクがあります。このサイトの情報は以下のとおりです。

- 次のIBM Director リリースのダウンロードと資料
 - IBM Director 5.10 アップデート 3 (5.10.3)
 - IBM Director 5.10 アップデート 2 (5.10.2)
 - IBM Director 5.10 アップデート 2 (5.10.2) UIM
 - IBM Director 5.10 アップデート 1 (5.10.1)
 - IBM Director 5.10 アップデート 1 (5.10.1) UIM
 - IBM Director 5.10
 - IBM Director 5.10 UIM
 - IBM Director 4.22
 - IBM Director 4.22 UIM
 - IBM Director 4.21
 - IBM Director 4.20
- *IBM Director Hardware and Software Support Guide* 資料。これは、サポートされている IBM システムおよびすべてのオペレーティング・システムをリストしています。6 週間から 8 週間ごとに更新されます。
- IBM Director の PDF 資料。さまざまな言語で Portable Document Format (PDF) 形式のものが用意されています。

IBM Director Software Developers Kit インフォメーション・センター

publib.boulder.ibm.com/infocenter/dirinfo/toolkit/index.jsp

IBM Director Software Developers Kit (SDK) インフォメーション・センターは、IBM Director SDK に関する情報を提供します。これは、API および

CLI の使用、タスクの作成、および IBM Director ユーザー・インターフェースからのツールの起動によって IBM Director の機能を拡張する上で役立つ一連のツールと資料です。

IBM Systems ソフトウェア・インフォメーション・センター

www.ibm.com/servers/library/infocenter/

この Web ページには、IBM Virtualization Engine、IBM Director、外部アプリケーション起動ウィザード、Virtual System Manager、およびその他のトピックについての情報が用意されています。

IBM ServerProven® ページ

www.ibm.com/servers/eserver/serverproven/compat/us/

この Web ページには、IBM Director との IBM System x™、BladeCenter、および IntelliStation® ハードウェア互換性についての情報が用意されています。

IBM サーバー

www.ibm.com/servers/

ibm.com の Web ページには、以下の IBM 製品用の情報、ダウンロード、および Remote Deployment Manager、キャパシティー・マネージャー、システム稼働状況、およびソフトウェア配布 (Premium Edition) などの IBM Director extension へのリンクがあります。

- IBM BladeCenter
- IBM System i™
- IBM System p™
- IBM System x
- IBM System z

IBM Virtualization Engine システム・サービスのフィックス

www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/VirtualizationEngine/home2.html

この Web ページは、Virtualization Engine システム・サービスに必要なフィックスに関する情報を提供します。フィックスには、システム・サービスに必要なオペレーティング・システムのフィックスと、それぞれのシステム・サービスが正常に機能するために必要なアプリケーション・レベルのフィックスが含まれています。

IBM フォーラム

www.ibm.com/developerworks/forums/dw_esforums.jsp

この ibm.com 上の Web ページは、Web ページとして使用可能ないくつかのフォーラム、あるいは IBM サーバーに関連した技術的な問題を討議するユーザーのための Rich Site Summary (RSS) フィードを使用したフォーラムへリンクしています。

これらのフォーラムの中の 3 つは、IBM Director ユーザーにとって特に有益です。

System x IBM Director フォーラム

www.ibm.com/developerworks/forums/dw_forum.jsp?forum=759&cat=53

IBM Director のどのようなトピックも討議できるフォーラムです。この Web ページには、RSS フィードを使用したフォーラムへのリンクがあります。

System x サーバーのフォーラム

www.ibm.com/developerworks/forums/dw_forum.jsp?forum=740&cat=53

System x サーバーのトピック (ドライバー、ファームウェア、オペレーティング・システム、クラスタリング、およびストレージに関連した質問を含む) を討議するフォーラムです。この Web ページには、RSS フィード経由でフォーラムにつながるリンクがあります。

IBM Director SDK フォーラム

www.ibm.com/developerworks/forums/dw_forum.jsp?forum=849&cat=53

特定のニーズに対応するために IBM Director SDK を使用して IBM Director の機能を拡張する方法について討議するフォーラムです。この Web ページには、RSS フィード経由でフォーラムにつながるリンクがあります。

IBM Redbooks™ 資料

www.ibm.com/redbooks/

以下の資料を IBM Redbooks Web ページからダウンロードできます。また、この Web ページで、特定の IBM ハードウェア資料、例えばシステム管理に関する情報にフォーカスした資料などを検索できます。

注: 資料の発行日に注意して、その IBM Director ソフトウェアのレベルと Redbooks 資料が参照しているレベルを判断してください。

- *Creating a Report of the Tables in the IBM Director 4.1 Database* (TIPS0185)
- *IBM Director Security* (REDP-0417)
- *IBM BladeCenter Systems Management with IBM Director V4.1 and Remote Deployment Manager V4.1* (REDP-3776)
- *Implementing IBM Director 5.10* (SG24-6188)
- *Integrating IBM Director with Enterprise Management Solutions* (SG24-5388)
- *Managing IBM TotalStorage® NAS with IBM Director* (SG24-6830)
- *Monitoring Redundant Uninterruptible Power Supplies Using IBM Director* (REDP-3827)

リモート管理アダプター

リモート管理アダプター概説

www.ibm.com/support/docview.wss?uid=psg1MIGR-4UKSML

この Web ページには、「*Remote Supervisor Adapter User's Guide*」および「*Remote Supervisor Adapter Installation Guide*」へのリンクが掲載されています。

リモート管理アダプター II 概説

www.ibm.com/support/docview.wss?uid=psg1MIGR-50116

この Web ページには、リモート管理アダプター II についての情報が掲載されています。

その他の資料

計画の目的では、以下の資料が参考になります。

- *Planning and Installation Guide - IBM BladeCenter (Type 8677)*
- *IBM Management Processor Command-Line Interface (MPCLI) User's Guide version 5.10*

付録 B. カスタマー・サポートへの連絡

ヘルプ、サービス、技術支援、または IBM 製品に関する詳しい情報が必要な場合は、IBM がさまざまな形で提供している支援をご利用いただけます。ここでは、IBM および IBM 製品に関する追加情報を得るにはどうすればよいか、ご使用の System x または IntelliStation システムで問題が発生した場合の対処方法、および、サービスが必要になった場合の連絡先について記載します。

サポートを依頼する前に

連絡する前に、以下の手順を実行して、必ずお客様自身で問題の解決を試みてください。

- ケーブルがすべて接続されていることを確認します。
- 電源スイッチをチェックして、システムの電源がオンになっていることを確認します。
- ご使用のシステムに付属の資料に記載のトラブルシューティング情報を参照するか、診断ツールを使用します。BladeCenter および System x システムの診断ツールの説明は、「IBM System x ドキュメンテーション」CD の「*Problem Determination Service Guide*」に記載されています。IntelliStation の診断ツールの説明は、IBM Support Web サイトにある IntelliStation の「*Hardware Maintenance Manual*」を参照してください。
- IBM サポート Web サイト (www.ibm.com/support/us) で、テクニカル情報、ヒント、および新規デバイス・ドライバーを調べるか、情報を要求してください。

多くの問題は、IBM のシステムやソフトウェアに付属のオンライン・ヘルプおよび説明資料に記載のトラブルシューティング手順を実行することで、外部の支援なしに解決することができます。ご使用のシステムに付属の資料には、ユーザーが実行できる診断テストについても記載しています。ほとんどの BladeCenter、System x、IntelliStation システム、オペレーティング・システム、およびプログラムには、トラブルシューティング手順やエラー・メッセージおよびエラー・コードに関する説明書が付属しています。ソフトウェアの問題だと考えられる場合は、オペレーティング・システムまたはプログラムの資料を参照してください。

資料の使用

IBM BladeCenter、System x、または IntelliStation システム、およびプリインストール・ソフトウェアに関する情報は、システムに付属の資料に記載されています。資料には、印刷された説明書、オンライン・ブック、README ファイル、およびヘルプ・ファイルがあります。

診断プログラムの使用方法については、システム資料にあるトラブルシューティングに関する情報を参照してください。トラブルシューティング情報または診断プログラムを使用した結果、デバイス・ドライバーの追加や更新、あるいは他のソフトウェアが必要になることがあります。IBM は WWW に、最新の技術情報を入手したり、デバイス・ドライバーおよび更新をダウンロードできるページを設けていま

す。これらのページにアクセスするには、www.ibm.com/support/us に進み、説明に従ってください。IBM 資料は、www.elink.ibm.com/public/applications/publications/cgibin/pbi.cgiで、「IBM Publications Ordering System」を使用して注文することもできます。

ソフトウェアのサービスとサポート

IBM サポート・ラインを使用すると、IBM System x サーバー、IntelliStation ワークステーション、およびその他の製品の用法、構成、およびソフトウェアの問題について、電話による援助を有料で受けることができます。

IBM ソフトウェア・メンテナンス (SWMA) を使用すると、IBM System i テクノロジー、System p サーバー、および System x の用法、構成、およびソフトウェアの問題について、電話による援助または電子アシスタンスを有料で受けることができます。修正およびアップデートは、製品の保証の一環であり、製品ライセンスに含まれています。

IBM サービスおよびサブスクリプション (S&S) を使用すると、System z メインフレームの欠陥ソフトウェアの問題について、電話による援助または電子アシスタンスを有料で受けることができます。修正およびアップデートは、製品の保証の一環であり、製品ライセンスに含まれています。

注:

1. IBM ハードウェアにIBM Director サーバーをインストールして使用する場合は、BladeCenter および System x 用の Implementation Services ServicePac[®] を購入して、IBM Director サーバーに関するサービスおよびサポートを受けることができます。
2. IBM 以外のハードウェアに IBM Director サーバーをインストールして使用する場合は、IBM Director サーバーのライセンスを購入する必要があります。ただし、このライセンスは、IBM Director サーバーのサービスおよびサポートを受ける権利を付与するものではありません。サービスおよびサポートは、サポート・ラインを通じて別途、購入することができます。また、System x および IBM x86 以外のシステム用サポート・ラインのプロアクティブ・サポート・オプションである Enhanced Technical Support (ETS) も購入できます。

使用する国または地域で、サポート・ラインがサポートする製品について詳しくは、www-935.ibm.com/services/jp/its/pdf/support/sllist.pdf をご覧ください。

サポート・ラインおよびその他の各種 IBM サービスについては、www.ibm.com/jp/servers/eserver/xseries/service/xsupportline.shtml をご覧になるか、あるいは www.ibm.com/planetwide/ で、サポート電話番号をご覧ください。米国およびカナダの場合は、1-800-IBM-SERV (1-800-426-7378) に電話してください。

付録 C. 特記事項および商標

ここでは、特記事項と商標の情報を提供します。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

© Copyright IBM Corp. 2004 439 本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交

換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
MW9A/050
5600 Cottle Road
San Jose, CA 95193
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

AIX
BladeCenter
DirMaint
DS4000
i5/OS
IBM
ibm.com
IntelliStation
Redbooks
ServerProven
ServicePac
System i

System p
System z
System x
TotalStorage
Virtualization Engine
xSeries
z/VM
zSeries

Intel[®]、Itanium[®]、および Pentium[®] は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java[™] およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft[®]、Windows、および Windows NT[®] は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Red Hat およびすべての Red Hat ベースの商標とロゴは Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

SET は、SET Secure Electronic Transaction LLC の米国およびその他の国における登録商標です。

UNIX[®] は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



Printed in Japan